

医師連盟 TOTTORI

鳥取県医師連盟発行
発行人 岡 本 公 男

〒680-8585 鳥取市戎町317 鳥取県医師会館内
電話 (0857)27-5566

西島英利議員(自民党)の 推薦を再確認!

【比例区】

|| 鳥取県医師連盟 ||



鳥取県医師連盟は五月九日、ホテルニューオータニ鳥取において執行委員会を開催、今夏に実施される参議院議員選挙対策については協議し、比例区については西島英利議員の推薦を再確認、決定した。

本連盟では既に平成二十年十二月十八日開催の執行

委員会において西島議員の推薦を決めていたが、四月二十日に開催された日本医師連盟執行委員会で「各県で再確認をお願いしたい」とされたことから急ぎよ執行委員会を開催したものである。

会議にあたり、事前に執行委員に対し行った意向確

認では、白紙撤回、民主党候補を推薦などの意見はわずか四人で、当日の議論の中では西島議員について、政権が変わろうとも本人の人格、識見、実績を評価し引き続き推薦し支援する、との意見が大多数を占め、西島英利議員の『推薦を再確認』した。この決定は、五月十日、日医連へ伝えた。

なお、鳥取選挙区に立候補を表明している坂野真理(民主党)、浜田和幸(自民党)、岩永尚之(共産党)の三氏についても議論したが、結論は持ち越しとし、五月十一日、日医連執行委員会の決定を待って後日、対応を協議するとした。

また、鳥取県医師連盟役員人事についても別記のとおり決定した。

また、鳥取県医師連盟役員人事についても別記のとおり決定した。

なお、鳥取選挙区に立候補

安藤たかお氏(民主党)を推薦!

【比例区】

|| 日医連執行委員会 ||

経 過

日本医師連盟は四月二十日、日本医師会館において執行委員会を開催し、参議院議員選挙対策について協議した。日医連では平成二十年一月二十日の執行委員会において現職の西島英利議員(自民党)の推薦を決定していたが、平成二十年八月の衆議院総選挙で

民主党が政権を担当することとなり政治情勢が変わっ

たこと、さらに本年四月の日本医師会役員選挙において親民主と言われている原中勝征先生（当時茨城県医師会長）が会長に当選し、日医連推薦候補を見直すこと表明していたことから執行委員会が開催された。

西島議員については、全国で四〇の道県で推薦を決定しており、このことの見直しについて賛否両論の侃々諤々の議論があった。

主な意見として、今まで支援してきた西島議員に降りろとは言えない、七月までにもう時間がない、スジ論が大切である、人と組織の品格をなくする、民主党は西島議員を降ろせと言っている、政権政党でない相手にももらえない、ブレないポリシーが大切だ、

政治とは距離を置くべきだ、時の政権に擦り寄るべきではなく右往左往してはダメだ、一旦白紙に戻すべきだ、誰も推薦しない案も一案だ、などがあった。

西島、清水両氏を「支援」

五月十一日

日医連執行委員会

会議冒頭、原中委員長が、

結局、この日は結論あるいは採決することせず、各県に持ち帰り、早急に現時点での各都道府県医師連盟の態度を再決定することとされた。

取っても変わらぬ医療政策を訴えていく」という条件付で、参議院選挙への対応は委員長一任となった。

「三副会長らの意見を勘案し苦渋の決断を迫られたが、最終的な合意に達した、基本方針として①組織内候補は立てない。②会員であり二県以上からの推薦がある候補者は支援を考慮する」と挨拶し、常任執行委員会では「日本医師会としては、民主、自民どちらが政権を

そこで、①安藤たかお氏を組織内候補としてはないが、日医連推薦とする。②西島英利氏と清水鴻一郎氏は『支援』する。③資金面では三氏とも対等と考え、各都道府県の自主的活動を拘束する考えはなく、「現在の政治状況を考えてご理解いただきたい」と、提案

があり、議論に入った。主な意見は、前回の執行委員会でも各都道府県医師連盟の意見を再度求めるとしたがその結果を先ず開示してほしい、政党より個人の時代だ、政権与党にすり寄るべきでない、基本理念を確立せよ、都道府県の自主性を認めてほしい、民主党候補のみ推薦で他の候補と差別するのはおかしい、などがあった。

特筆すべきは「民主党政権だから民主党候補を推薦するべき」と言う発言は出なかったことである。

これらの意見に対して、原中委員長、横倉、羽生田、中川各副委員長がそれぞれ丁寧な現在の政治状況を説明し、異口同音に「会場から出た意見と全く同感であ

るが、原中会長体制となつた四月以降の政府与党との良好な関係を壊したくないのが最優先で、苦渋の決断であったことを理解してほしい」と訴えて、「原中委員長一任」が採決を行うことなく了承された。

最後に原中委員長が『高度な政治判断である』として安藤たかお氏の推薦を決議した。

【安藤たかお氏（略歴）】

昭和34年4月1日生まれ

日本大学医学部（昭和59年卒） 消化器内科

医療法人社団永生会永生病院理事長

（東京都八王子市）

全日本病院協会副会長、東京都医師会前理事など

鳥取選挙区は 坂野、浜田両氏を「支援」

県医連執行委員会

五月二十日、執行委員会を開催し、鳥取選挙区の対応について協議し、推薦依頼のあった坂野真理（民主党）、浜田和幸（自民党）の両氏を『支援』することとした。

会議に先立ち、役員に対し意向確認調査を行ない、その結果をもとに活発な議論がなされた。

主な意見では、浜田氏は即戦力だ、坂野氏は医師で現場をよく知っている、両氏共に推薦しないのも一案だ、各地区に任せてはどうか、政党より人物を評価すべきだ、などがあった。最後に岡本委員長は『一人の選挙区において二人の支援は苦渋の選択であるが、かといって自主投票では主体性がない』と述べ、理解を求めた。

なお、当日は、比例区の追加対応について議論したが、西島英利議員の推薦のみを確認し、追加の推薦、支援はなしと決した。

参議院選挙の投票の仕方

参議院選挙の投票の仕方は二段階となっています。

まず、鳥取選挙区の投票用紙（黄色）には候補者の『候補者の氏名』を書きます。

次いで比例区（旧全国区）の投票用紙（白色）には『候補者氏名または政党名』を書きます。

比例区の当選者は、まず政党ごとの当選人数がドン

ト方式で決まります。政党内での当選順位は候補者個人名の得票順に決定します。従って、**比例区においても『候補者の氏名』を書くことが重要**となりますので、ご理解下さい。

<p>第 四 回 参 議 院 鳥 取 県 選 挙 区 選 出 議 員 選 挙 投 票 用 紙</p> <p>候補者氏名</p> <p>鳥取県選挙管理委員会印</p> <p>○ 注 意 1 候補者の氏名は、欄内に一人書くこと。 2 候補者でない者の氏名は、書かないこと。</p>	<p>第 四 回 参 議 院 鳥 取 県 選 出 議 員 選 挙 投 票 用 紙</p> <p>候補者氏名又は政党その他の政治団体の名称若しくは略称</p> <p>鳥取県選挙管理委員会印</p> <p>○ 注 意 1 候補者の氏名を、欄内に一人書くこと。 2 候補者の氏名に代えて政党その他の政治団体の名称又は略称を、欄内に一つ書くこともできること。</p>
--	---

鳥取県医師連盟役員名簿

自平成22年4月1日
至平成24年3月31日
〔敬称略〕

委員長 岡本公男

副委員長 富長将人

常任執行委員 天野道麿

委員 板倉和資

池田宣之

野坂美仁

渡辺憲仁

笠木正明

井庭信幸

清水正人

森英俊

石谷暢男

尾崎眞人

安梅正則

西田法孝

神鳥高世

安達敏明

遠藤秀之

中曾庸博

魚谷純

明穂政裕

會計職務代行者 新田辰雄

會計監督者 野坂美仁

明穂政裕

松浦喜房

松田喜房

作野嘉信

吉中正人

吉田眞人

米川正夫

岡田克夫

小林恭一郎

安陪隆明

石田浩司

飛田義信

小田哲朗

小林哲

石井敏雄

平成22年度鳥取県医師連盟収支予算(案)

【収入の部】

(単位:千円)

款	項	予算額	前年度予算額	比較増減額	摘要
1. 会費		11,570	11,630	- 60	
(47.07%)	1. 会費	11,560	11,620	- 60	県医連 @10,000円×404人=4,040,000円 日医連 @20,000円×376人=7,520,000円
	2. 特別会費	10	10	0	
2. 寄付金		3,008	3,024	- 16	
(12.24%)	1. 日医連寄付金	3,008	3,024	- 16	7,520,000円×40%=3,008,000円
3. その他の収入		1	1	0	
(0.01%)	1. 雑入	1	1	0	普通預金利息
4. 繰越金		10,000	10,000	0	
(40.68%)	1. 繰越金	10,000	10,000	0	前年度繰越金
収入合計		24,579	24,655	- 76	

【支出の部】

款	項	予算額	前年度予算額	比較増減額	摘要
1. 事務費		200	200	0	
(0.81%)	1. 一般事務費	200	200	0	
2. 組織活動費		3,850	3,850	0	
(15.66%)	1. 旅費	2,000	2,000	0	執行委員会旅費、活動旅費
	2. 会議費	500	500	0	執行委員会諸費
	3. 懇談会費	1,000	1,000	0	国会議員、県会議懇談会費
	4. 負担金	50	50	0	
	5. 広報費	300	300	0	医師連盟TOTTORI 3回発行
3. 選挙関係費		1,000	1,000	0	
(4.07%)	1. 寄付金	1,000	1,000	0	
4. 寄付交付金		9,705	9,772	- 67	
(39.49%)	1. 日医連負担金	7,520	7,560	- 40	@20,000円×376人=7,520,000円
	2. 地区連絡費	1,500	1,500	0	
	3. 支部交付金	685	712	- 27	@2,700円×254人=685,800円
5. その他の経費		9,824	9,833	- 9	
(39.97%)	1. 予備費	9,824	9,833	- 9	
支出合計		24,579	24,655	- 76	

収支差引残額 なし